

フスベヨリ谷

かつて三嶺は地元の山近ぶかす。久保の谷の上系に「ミツクマ」という山があり、頂上付近に古池があるといわれていた深い山であった。

国指定特別天然記念物
ミヤマクマササヤ
コメツツジ群落

西熊山

かつて奥物部の春は西熊の山桜の開花とともに始まる。いたしかし華麗に森を彩る山桜も昭和の終戦りとともに姿を消した。森の自然の移ろいの中で、他の樹木との競争に負けたためである。(高知の森林より)

谷側にある苔むした岩。上部が川原に向かえば徐々に突き出ている。その昔、官山の盗伐人がこの岩の下の宿にしていたという。明治初期の話という。

ヌズビノ岩谷

平坦地をヒビノコナロ、と呼ぶ

ヒビノコナロ
「イザヤ」と方言で「ヒビ」といい、イザヤの根木はヒビノコ。平坦地がイザヤの根木が生えている平坦地という意味がある地名。

さおりが原分岐

非常に危ない

あちこちで歩道が寸断。大きくくぼれている。

三嶺

大史伝説
ある時山仕事の男が道に迷い山頂の池のほとりの崖に腰をかけた休憩中にヤチシの尻を倒木にゴンゴンと打ちつけるとその木が丸くおくと動き出したという昔話が伝わっている

三嶺ヒツリ

シロにまいたわけは「はいけれどお尻が白いのは前を歩く仲間を見まわれない目印みだ。ハート型のお尻の白い毛が1匹と3匹くらゐの差をはかるこい

歩道が壊れている

原生林の呼吸が流れているようだ

三嶺が見える

カヤバケ 1720m

昔の人はカンガ谷の土合の切り立、崖を見て、鉤(かぎ)を垂けておきながら上へ上へ急なところの急なところ(カンガ)と名付けたが、岩壁(カンガ)が垂直化してのちに由来すると考へられる。

スゲナロ谷



ヌズビノ岩

エ石赤の跡
河原に流れ、歩道も寸断

西熊流域最深处
原生林の森が広がっている

原生林の中のゆきやうな長尾

フスベヨリ谷
「フスベヨリ」とは何を意味しているのだろうか。堂床、1丁分岐周辺の落葉広葉樹林の森がはらばらけ、明治初期、盛んに伐採が行われた所である。山中あちこちの炭窯から細々と上がる煙は、このようにたなびき、暮れ、ついたに遠くない。ふたべが「寄る谷」あるいは「ふたべの仕事を人が寄る谷」から「フスベヨリ谷」という名をつけたのとはないだろうか。
高知の森林より
(本には研究が150年とあるが、発行が1990年なので30年とにして180年としました)



グレイ色のフナ、オレンジ色のヒメシヤウ、色々木が支え合、強固な自然がつくられていく。

葎生越へ

カンガ谷

サワグミ、ハリギリ、カシ、ケヤキ、トナリ

原生林

谷の中、道を見まわらば、歩く。

フスベヨリ谷は、大まか、歩道不明

浮石の多い歩道注意

フナの大木の森

森の巨人100選 トナリキ

さおりが原

百神堂

トナリ

葎生越の本名は名頃越であった。三嶺南の最低鞍部(1,620m)に、峠から祖谷側の四ツ小屋谷へ通じていた。この谷にはかつて上葎生村の村人が、ツルクの皮を剥ぎ、四軒小屋掛けしていたという。皮は外皮を削り取り、内皮を白くついで糊を取っていた。タツツリとが「ベツリ」と呼ばれる手あき和紙の製造には欠かせない材料だ。糊は木灰から高知まで舟で運ばれたという。

森の巨人100選 イヌザウ

ゆきやうな原生の森

屏風橋の右手前にある大岩の上に積まれた石塔群と石碑がある。1961年11月2日、天候のために「道草」同年10月、熊野山金剛山、津田、小根、岡田、ほかにおおみかみうねの山に、と刻まれている。

屏風橋 危険

慰霊碑

フスベヨリ分岐

ハジ白河原



カモカ、あこい

長笹谷

西熊林道



登山道を歩いているとあちこちに石積みが見られる。この行為は宗教を超えて世界各地にあり、人が自然への畏怖と自己の存在を証明しようとする、異なる二つの思いと表現ある行動であると考へられている。

田波と土佐を結ぶ最も古い道路は祖谷が豊後〜長根を伝い、堂床谷、1丁、堂床、丸山、山白橋、1丁、蓮華谷、柳井谷、途中、熊山道、拾い、和久保、中内へ通じる西熊往還と呼ばれた産業牛馬道が、戦後までしばらくは残っていた。

この周辺はツキノワグサの行動範囲となっており、2022年にも確認されている。入山にはクマ避け鈴などの万全な対策と注意を必要とする。



西熊林道

ヒカリ石登山口

水が透るとおとともきれい。

西熊フルー

清冽な溪のせせらぎ



この先、危険! フスベヨリ谷登山道の流出、崩壊、99%、通行困難、2018年10月山の会

ハジヒツツテ
昭和36年に設置された堂床ヒツツテが老朽化したため、且、愛する人々の要望により、高知県と物部町の事業として新築された。1990年、物部町体育会が

スギ林の中の急坂、透れは竹林にうきうきと空を舞う。かつて堂床避難小屋があった。3丁、昔、祖谷から地蔵様、宿、この地に来た人が、こゝに堂床、という地名が残っている。

